◇　前　田　弘　幹　君

○議長（小西秀延君）　会派ひかり、６番、前田弘幹議員、登壇を願います。

〔６番　前田弘幹君登壇〕

○６番（前田弘幹君）　皆さん、こんにちは。６番、会派ひかり、前田弘幹です。初めての代表質問で勝手が分からず、町政執行方針並びに教育行政執行方針記載の文面を使っての質問となりますが、決して文章の揚げ足取りではないことをご理解いただきたいとまずは思います。

また、切れ目のない子育て支援や全国に先駆けて中学生までの給食費無料化など突出した政策は賞賛に値すると先に言っておきます。

では、通告に従いまして代表質問させていただきます。まずは、町政執行方針について伺います。

１、町政執行方針について。

（１）、町政に臨む基本姿勢について。

①、「暮らしを支える分野において、切れ目のない支援と環境整備を進める」とあるが、特にＳＮＳ等による防災情報や地域公共交通の利用方法など、高齢者にはまだまだ理解が難しく、もっと丁寧に説明すべきと考えますが見解を伺います。

②、「次の世代がこのまちで暮らし続けたいと思える環境を整えることが責務である」とあるが、今の世代がそう思えるまちづくりでなければいけないと考えますが、見解を伺います。

（２）、重要施策について。

①、安心して暮らし続けられる基盤づくりの推進は非常に重要なことと考えますが、様々な支援を行うための職員確保と課題について伺います。

②、子供たちが自ら考え、選び、行動する力を育てるために、家庭・学校・地域が連携して、子供たちの挑戦を温かく支える環境づくりに取り組むとあるが具体策について伺います。

③、持続可能なまちづくりの推進の中で一次産業の高度化と持続的発展への取組に対する思いを伺います。

④、役場新庁舎について、令和７年度中に建設場所を選定するとしていたが、進捗状況を伺います。

（３）、主要施策について。

①、防災・減災について、津波避難施設の在り方を検討するとあるが、全町各地域ともに待ったなしの状況です。災害用物資や発電機等の装備的には毎年少しずつ整備されていると思いますが、避難施設は一向に進んでいるように見えません。災害に強いまちづくりとは何か伺います。

②、住環境について、計画的な公営住宅の建て替えは、老朽化する現状を鑑みると必須ですが、単に建て替えるだけではなく、将来のまちづくりを見据え、さらに様々な角度からの議論が必要と考えますが見解を伺います。

③、道路について、国道36号白老西拡幅の早期着手に向けた要望活動と並行して、まちが行うこととなる上下水道などのインフラ整備に向けた準備が必要だと思うが見解を伺います。

④、地域情報化について、誰もがデジタルの恩恵を享受できる町民サービスとあるが、高齢

者の多い白老ではアナログもまだまだ重要な役割を持っていると考えますが見解を伺います。
⑤、観光について、民間事業者や関係団体が主体となる誘客活動等への支援を通じて、町内の周遊性と滞在時間の向上を図るとあるが、ウポポイが開業してから既に５年が経過しており、新たな施策展開が必要ではないかと考えますが見解を伺います。
⑥、行財政運営について、町職員の退職が続く現状について見解を伺います。
○議長（小西秀延君）　大塩町長。
〔町長　大塩英男君登壇〕
○町長（大塩英男君）　前田議員の代表質問にお答えします。
「町政執行方針」についてのご質問であります。
１項目めの「町政に臨む基本姿勢」についてであります。
１点目の「切れ目のない支援と環境整備を進めるにあたり、ＳＮＳ等による防災情報や地域公共交通の利用方法など、高齢者に対し丁寧に説明する必要性」についてでありますが、住民サービスの向上や業務効率化を図るためには、デジタル化の推進が必要と捉えておりますが、高齢化率が高い本町においては、環境を整備するだけではなく、使いこなすための継続的な支援と利用する動機づけが必要であると認識しております。
このことから、防災情報や地域公共交通の利用方法等につきましては、広報紙やホームページでの情報発信に加え、担当者が町内会や個人宅等に出向き、講習会や登録方法の説明を実施するなど、今後におきましても、デジタル化を進めつつ、個々の状況に合わせた対策を講じてまいります。
２点目の「次の世代だけでなく、今の世代も含め、このまちで暮らし続けたいと思える環境を整える考え」についてでありますが、町政執行方針におきましては、「今を支え、未来を育てる」をテーマとして掲げ、町民の皆様が安心して暮らせる今と、次世代が希望を持てる未来を実現するため、全庁横断的で持続可能なまちづくりを進めることとしております。
今後におきましても、本町が直面する人口減少や少子高齢化、産業の担い手不足などの課題に対応するとともに、今の安心と活力を守りながら、世代を超えて、町民の皆様が希望を持ち続けられるよう、様々な施策の展開を図ってまいります。
２項目めの「重要施策」についてであります。
１点目の「様々な支援を行うための職員確保と課題」についてでありますが、特に専門職の確保につきましては、保健師、社会福祉士を採用し、人材確保により重層的支援体制を構築し、複雑・多様化する課題やケースへの対応を丁寧に進めてまいります。
２点目の「子供たちの挑戦を温かく支える環境づくりの具体策」についてでありますが、教育行政執行方針にもありますとおり、本町では、子供たちの「主体性・協働性・実践力」の育成を目指して取組を進めているところであります。
このことは、授業における自立した学習者の育成、多様な他者との対話を通した深い学び、そしてこれらを発揮する機会の創出等、教育活動の様々な面で実施しているところであります。
特に、現在では、学校評価や学校運営協議会により、地域住民や保護者の皆様との連携を深め、よりよい教育活動となるよう取組を進めているところであります。

３点目の「一次産業の高度化と持続的発展への取組に対する思い」についてでありますが、本町を幹事自治体として推進してきた「次世代和牛生産システム構築拠点」事業は、産官学連携の下、畜産業界全体が抱える社会課題の解決を目指す大型プロジェクトであります。

今後につきましては、多様なステークホルダーと連携し、研究成果を基に地域実装を進めることで「白老モデル」の確立を目指すとともに、本町から北海道の畜産業、さらには日本全国の畜産業の発展につながる取組となるよう、本町としても力強く推進してまいります。

４点目の「役場新庁舎について、令和７年度中に建設場所を選定するとしていた進捗状況」についてでありますが、新庁舎の整備に向けては、庁舎建設等検討委員会において庁舎建設場所の候補地案の選定が終了し、現在、内部協議を進めているところであります。

今後につきましては、新年度において有識者を交えた検討会の開催を図り、候補地案を踏まえ建設位置の協議を重ねるとともに、役場庁舎改築基本計画の策定に努めてまいります。

３項目めの「主要施策」についてであります。

１点目の「災害に強いまちづくり」についてでありますが、町民の安全安心を守るまちづくりにつきましては、減災や災害発生時の命を守る仕組みとともに、平時からの人と人とのつながりである共助が大変重要であると捉えております。

このことから、引き続き、出前講座や自主防災組織への助成の強化などの取組を進め、地域と行政の連携による防災力向上に努めてまいります。

２点目の「計画的な公営住宅の建て替え」についてでありますが、現在の公営住宅の建て替え事業につきましては、耐用年数を超過し老朽化の著しい緑ケ丘団地と西団地、旭ケ丘団地の住戸改善が急務となっていることから、公営住宅等長寿命化計画に基づき、計画的な建て替え事業に着手したところであります。

さらには、将来の人口推計を考慮したストック戸数の適切な管理を目標に掲げ、整備戸数の縮減を図り経済性に優れた団地整備に努めてまいります。

３点目の「国道36号白老西拡幅の早期着手に向けた要望活動と並行して、町が行うこととなる上下水道等のインフラ整備に向けた準備」についてでありますが、昨年４月に新規事業化された一般国道36号白老西拡幅整備につきましては、現在、現況測量等が実施されているところであります。

国道区域内には、占用物件として本町が許可を受けている上下水道や光ケーブルのほか、接道する町道との道路管理者間協議が現在進められており、今後、拡幅区域の決定に伴い占用物件等の影響調査や移転補償に関わる協議が行われていくものと認識しております。

４点目の「地域情報化」についてでありますが、町民サービスのデジタル化を進めるに当たっては、高齢者などの情報機器の取扱いに不慣れな方が取り残されることがないよう支援することが必要であると捉えております。

このことから、従来の窓口手続や電話での対応を残すなど、アナログな方法も併用しながら、段階的にデジタル化を進めるとともに、スマホ教室を開催するなど、デジタルデバイド対策に取り組んでまいります。

５点目の「観光における新たな施策展開の必要性」についてでありますが、ウポポイ開業か

ら５年を経て、本町の観光施策につきましては、点から線、面への拡大、高付加価値化という新たな局面に突入していると感じております。

また、インバウンド増加率の上昇などに伴い、多様化する観光ニーズに対応するため、株式会社日本旅行北海道との包括連携協定を生かしながら、新たな施策の強化に努めていく考えであります。

６点目の「職員の退職が続く現状における見解」についてでありますが、退職する理由の多くは、家庭の事情や今後のライフプランなどを見据え、より働きやすく興味や関心のある仕事への転職など、多様化する職業観の影響が大きいと捉えております。

職員の離職防止の取組につきましては、心理的安全性を高め、指導力や育成力の向上とチームワークの形成をより重視しながら、働きがいのある組織風土を醸成してまいります。

○議長（小西秀延君）　６番、前田弘幹議員。

〔６番　前田弘幹君登壇〕

○６番（前田弘幹君）　それでは、再質問をさせていただきます。

まず、町政に臨む基本姿勢について３点お聞きします。まず、（１）の①の部分です。町民ニーズを捉えても、実際に皆さんが使えなければ意味がないのではないでしょうか。デジタルよりもアナログのほうがよい場合もあります。特に高齢者には物事の進むスピード、ＤＸ化が早過ぎるため、せっかくの行政サービスも絵に描いた餅状態なのではないでしょうか。ぜひともその辺を理解して進むスピードを少し落とし、誰もが使える政策の実現を期待しますが、今後の進め方について改めて見解を伺います。

②、世代でいうと高齢者世代、現役世代、子供世代があると思います。高齢者が暮らしやすいまちは、どの世代も暮らしやすいまちだと思います。現役世代が生き生きと活動できるまちは、活気があります。子供世代が活発に元気よく楽しく暮らすまちは、全体的に明るい雰囲気があるまちです。雰囲気がよいまちにはほかのまちからも人々が訪れ、さらにまちがよくなっていくと思います。捉え方もあるとは思いますが、高齢者や子供たちへの配慮は伝わってきますが、いわゆる現役世代、ここへの応援がちょっと足りないように感じますが、見解を伺います。

続いて、（２）の③のところです。次世代和牛生産システム構築拠点事業には、国というか、たくさんの予算がついたと聞いております。必ずしもこのまちの一次産業において、次世代、高度化や付加価値アップにならないこともあるとは思います。産官学の皆さんが情報や知識を共有できる取組と組織づくりなど､それ以上の効果を出すものと期待するところではあります。まちが最も期待し、協働で進めたいものがあれば伺います。

次に、重要施策について１点お聞きします。（２）の④番、様々な観点からも早急な検討を進めていただきたいと思っております。今のスピードでは、新庁舎が建設される未来が全く見えません。公費一つ取っても計画が遅くなればなるほど増大していきます。再三伺い恐縮ではありますけれども、本当に建設する強い思いがあるのか、１期目のうちに道筋をはっきりつけれるのか伺いたいと思います。

続いて、主要施策について５点お聞きします。（３）の①、防災のところです。町民を全員助

ける、100％救済する。そのためには、まず初めの１％から段階的に精度を上げていかないと無理なのではないのかなと考えます。今何もない状況の中で、何もとは言いませんが、ない状況の中で皆さんを助けるという話がよく出ますけれども、ゼロか100の議論ではなくて、まずは10％の人を助けることをする。次に、20％の人が助かるという確率を上げていくというのが強化ではないかと考えます。避難タワー、また築山等も検討していっても造らないと意味がないことだと思います。災害はいつ起こるか分かりません。今日かもしれない、来月かもしれない、来年かもしれない。起こらないことが一番いいことではありますけれども、万が一の備えとしては早急にやるべきことだと思います。災害に強いまちづくりとは覚悟だと考えますが、改めて今後の防災、減災の進め方について伺います。

（３）の②、公営住宅の建て替えは今後50年にわたりこのまちを形成していくものです。建ててしまえば、これは当然のことながら動かすことはできません。地域交通やコミュニティ、生活様式をつくる上でも非常に意味のあるものだと考えます。例えば高齢者を一つの地域に集めたら地域交通の便がよくなる、子育て世代を一つの地域に集めたら地域での子育てコミュニティがつくれるなど、どうやってその場所を活用するかを付加するだけでもその効果が倍にも変化するのではないでしょうか。時代には合わないでしょうが、白老町は温泉地域でもあるので、個別にお風呂をつけないで１か所に例えば銭湯的な場所をつくるだとかすれば、お風呂の設備代も安くなり、その銭湯がコミュニティにもなるなど、とっぴなアイデアではありますけれども、それ次第では多くの問題を解決することにもなると思いますが、見解を伺いたいと思います。

（３）の④、人員の少ない中ではありますが、何度も言いますが、アナログもぜひ残していただきたい。ＤＸ政策の重要性も理解しておりますが、地域の現状を鑑みて進めるところ、少し立ち止まるところを考えていただきたいと思いますが、見解を伺います。

（３）の⑤、小手先だけの変化ではこれまでと同様で何も変わることはないと思います。大胆な手法でどんどん変えていきましょう。せっかく若い町長なのですから、新しい発想でもうどんどん変えていっていただきたいと思います。改めてその見解を伺います。

（３）の⑥、行政運営についてです。町立病院、この１年見てどう感じるでしょうか。職員の考え方、行動原理等、何か変わった感じはしないでしょうか。１年前と今とでは皆さんよい意味で変わったと思います。それが業績にも表れてきているのではないか。やる気とやり方で病院も変わったのです。役場、庁舎内改革もぜひしていただいて、職員の活気が町民にも伝播すればもっともっとこのまちはよいまちになります。町長の思いを伺います。

○議長（小西秀延君）　大黒副町長。

○副町長（大黒克已君）　それでは、前田議員の再質問にそれぞれお答えさせていただきます。

全部で９点の質問だったかなと思っております。

まず１点目のデジタル化に関しまして、アナログが必要な場合もあるのではないかという今後の進め方というところでございます。スマートフォンの普及とともに様々な行政サービスをデジタル化することで業務の効率化とサービスの拡大につながっていると認識しておりますが、もちろんスマートフォンをお持ちでない方や利用が難しい方もいらっしゃいますので、ア

ナログ、いわゆるこれまでの手続等も併用しながら進めることを基本としております。デジタルの進歩は急速に進んでおりまして、行政といたしましてもこれに乗り遅れないようデジタル化していく必要はあると考えておりますが、当然誰もが利活用できなければ意味はございませんので、デジタル化による手続等の移行に際し、絶えず検証しながら別の手法も用意するなど未利用者を取り残すことのないよう進めてまいりたいと考えてございます。

次に、現役世代への応援不足の見解というご質問でございました。少子化の波は当然本町にも押し寄せており、それを少しでも食い止めるためにも子育て支援は欠かせないものと考えておりますが、人口増加策として移住、定住策の基本は議員のおっしゃるとおり、今ここに住んでいる町民の皆さんが白老町を心からよいまちだと思えるところであれば移住される方も増加すると考えております。そのためにも、子供や高齢者に対する配慮はもちろんでございますが、現役世代に対しましても金銭的な配慮だけではなく、このまちに住んでよかったと思えるような様々な施策の展開を今後も図ってまいりたいと考えております。

続きまして、一次産業の高度化のところで、町が期待しているところというようなご質問でございました。今後10年間の次世代和牛生産システム構築拠点事業では、もちろん試行錯誤の繰り返しの中でよりよい結果が生み出されてくるものと期待しております。町としましても、この事業を通して外部環境に左右されにくい強靱な地域基盤を築くこと、町民が畜産を地域の誇りとして共有するシビックプライドを醸成すること、そして10年、20年先の次世代に誇れる産業の土台を残すことが重要であると考えております。それらの研究の成果のみならず、その過程も含めて様々に吟味し、本町にとりましてその成果や取組などを吸収していきたいと考えているところでございます。

続きまして、役場庁舎についてのご質問でございました。現庁舎の現状や今後の防災拠点としての在り方を考えたとき役場庁舎の改築は避けて通れないものであり、町民の安全、安心など様々な観点から重要な政策であると捉えておりますので、今後も進めなければならない事業でございます。

次に、防災、減災のところの災害に強いまちづくりというところのご質問でございましたが、昨年の津波避難に際しても様々な町の課題が浮き彫りになりました。これを一つ一つ検証しながらよりよい方向に進めて、町民の安全、安心ということをしっかりと捉まえて施策を打っていかなければならないと考えてございます。その中で議員のおっしゃるとおり10%、20%というようなお話もございましたが、確率を少しずつ上げながら着実に進めてまいりたいと思っております。

また、先週社台地区におきまして津波避難施設に関する住民説明会を開催をいたしました。その中におきましても、いつ災害が起こるか分からないという中で早期に整備を進めてほしいという意見が多く出されてございました。町といたしましても、施設の選定に多くの時間を費やすことなく早急に実施に向けた作業を進めていく考えでございます。

続きまして、住環境の公営住宅の関係のご質問でございます。現在緑ケ丘団地建て替えの事業を行っておりますが、この建て替え事業は公営住宅等長寿命化計画に基づき実施しているものでありますが、今後建て替え事業に伴う入居者の住み替えが済んだ後に子育て住宅や高齢者

住宅の整備について、入居者のニーズに応じた検証を行う必要があると考えてございます。
　続きまして、地域情報化のアナログを残すことについてのご質問でございました。先ほどの質問と同様な回答になるかもしれませんが、今行政といたしましては積極的にＤＸ政策は進めていかなければならないものということが前提になります。しかし、これらを積極的に進めるためには莫大な費用が必要であることから、地域の現状を踏まえての進み方はもちろんでございますけれども、経費面におきましても一度立ち止まって検討する場面もあると捉えてございます。
　続きまして、観光の質問で新たな施策の展開というご質問でございました。現在これまでもどのような事業を実施、展開することが大きな成果につながるのかということ、これが非常に難しいところでございまして、従来の常識や固定観念にとらわれず、物事を反対の視点や新しい視覚で考えること、いわゆる逆転の発想も必要であるという認識でございます。ただし、これは一過性に終わってしまうのでは意味がございませんので、それを継続していって少しずつ身になっていけるような施策の展開を踏み出していきたいと考えてございます。
　最後に、職員の退職についての病院経営改革の部分の生かし方というような質問でございました。今年度から病院経営監を配置し、病院の経営改革を進めており、多くの成果が生まれていると私も捉えております。これらの結果を踏まえて全てイコールということにはなりませんが、役場内部にも活用できることがあると考えておりますので、その活用手法や進め方について早期に検討を進めてまいりたいと考えてございます。
○議長（小西秀延君）　６番、前田弘幹議員。
〔６番　前田弘幹君登壇〕
○６番（前田弘幹君）　それでは、２点だけ再々質問させていただきたいと思います。
　まず、新庁舎の件なのですけれども、この答弁書の中でも協議を進めているところということまでは書いているのですけれども、令和８年度中には道筋だけでも決定ということでぜひとも言っていただきたいのですけれども、そのことをまず伺いたいと思います。
　あと、観光のところです。ここも大きな旅行会社と組んでということで進めるというようなことだったのですけれども、よそから見たプロの目と町民というか、このまちに住んでいる人方の目です。これが我々がふだん当たり前と思っていることも、よそから見たらすごい資源だということもあるし、よそから見てここいいよねというところがあっても、町民から見たらもっといいところがあるよというようなアイデアがお互いに出し合えたらもっといい観光になると思うので、そこは決してお金のかかることでもないですし、本当にアイデア一つで新たな可能性が出ると思いますので、ぜひそこは協力しながら何かしらのことをしていただきたいなと思いますが、その見解だけ伺いたいと思います。
○議長（小西秀延君）　大塩町長。
○町長（大塩英男君）　前田弘幹議員の代表質問の再々質問ということでいただきました。
　庁舎の関係と観光の関係ということでお答えをさせていただければなと思います。庁舎の改築事業につきましては、議員のほうからこれまでも多くのご心配をいただいておりまして、当初の見通しよりも時間を要しているということは事実でありまして、その最終的な責任は私に

あると思っております。本年度改築事業を前に進めるよというのは、たしか１年前の３月の会議の中で議員にもお話をしたのかな、それから１年ということで、この間１答目で答弁させていただいたとおり、内部の庁舎建設等検討委員会を本格化させて、庁舎の建設場所の候補地というような選定を終えさせていただきました。今後のスケジュールとしましては、新年度に向けて町民会議っていいますか、町民の皆さんの意見を聞いて議論を深めて最終的にはその建築場所の決定と。そして、さらには庁舎改築の基本計画の策定に努めてまいりたいと考えているところでございます。

議員のほうからどうなのだ、必要なのかどうなのかというようなお話もございまして、私としてはやはりこの新庁舎の建設というのは必要だと捉えております。ただ、一方では人口減少であったりですとか、財政状況を踏まえた中で十分に精査をする必要性があるというようなことと、役場庁舎の維持というか、この建設については、これは条例で定まっていることでして、やはり議員の皆さんであったり、町民の皆さんのご理解をいただかないと役場庁舎というのは建設ができないと私は認識しておりますので、今後しっかりと町民の皆さん、そして議員の皆さんにご理解をいただきながら進めさせていただきたいと。スピード感を持ってというようなお話ですので､スピード感を持って進めさせていただきたいと思っているところでございます。

もう一点観光のお話がございました。議員ご指摘のとおり、よその目から見た目と町民から見た目、私も町民ですので、見た目で違うよね、日常的な風景が外から見たときにわくわく感を与えるというか、そういうようなことですので、これは町外から来た方々に様々にご意見をいただいたりですとか、今大学生のフィールドワークをやっていただいたりですとか、そういったことも含めて様々なご意見を頂戴した中で、融合させた中でこの観光というのは取り組んでいきたいなと思っております。

それともう一点、ウポポイが開設されて、開業されて５年と、コロナも落ち着いてというような中で海外の方々が非常に多くなっておりまして、昨年の民間のデータによると、昨年の夏に海外の旅行者が昨年と比較して上昇エリアという、実は全国で白老町は第６位、北海道ではほかにない、道内で唯一白老町が上昇エリアということで選ばれました。そういったことも含めますと、やはり海外の旅行者の方々に目を向けたその施策というのも今後必要になってくるのかなと捉えております。ですから、そのような中からも従来の延長線ではなくて、ほかにない魅力づくりであったり、人の流れを変えれるような仕掛けづくりが必要だと捉えておりますので、そこもしっかりと取り組んでまいりたいと考えております。

○議長（小西秀延君）　６番、前田弘幹議員。

〔６番　前田弘幹君登壇〕

○６番（前田弘幹君）　それでは、教育行政執行方針について質問をさせていただきたいと思います。

２、教育行政執行方針について。

（１）、学校教育の充実について。

①、自立した学習者の育成について、具体的な考えを伺います。

②、ふるさと教育の充実は、まさに魅力満載の「白老」を学ぶこと、感じること、利用する

ことで将来の糧になるものです。教材としての「白老」の見解を伺います。

③、現在、研修や研究等で各大学関係者・学生が白老を訪れています。町外から見た白老町を語ってもらうのも子供たちの豊かな成長にはすばらしい経験になると思いますが見解を伺います。

（２）、社会教育の推進について。

①、成人教育の推進について、地域の担い手づくりには、親と子、祖父母と孫など異なる世代が共に学ぶ機会も必要と考えますが見解を伺います。

②、地域連携による教育活動の推進の中で、白老東高校が進める探求学習への支援を拡大するとしています。全国的な生徒数の減少が明らかな中、地元高校の存続は重要事項と考えますが見解を伺います。

○議長（小西秀延君）　井内教育長。

〔教育長　井内宏磨君登壇〕

○教育長（井内宏磨君）　「教育行政執行方針」についてのご質問であります。

１項目めの「学校教育の充実」についてであります。

１点目の「自立した学習者の育成」についてでありますが、様々な教育活動を通して、児童生徒が学習目的等への理解を深め、主体的に学び方の工夫等を行い、自己指導能力を獲得することにより、将来にわたって自ら意欲を持って効果的に学び、課題解決を図ることのできる人材の育成を目指すものであります。

そのために白老町スタンダードを更新し、学び方を学び、学び方を身につけた児童生徒の育成を図ってまいります。

２点目の「ふるさと教育の教材としての白老の見解」についてでありますが、本町では、小学校３年生から社会科副読本を活用し、ふるさと白老を学ぶ活動が行われるとともに、白老未来学の観点から、各校において特色ある活動が展開されているところであります。

これらの取組は、まさに地域全体を学び場として、地域産業や白老町の自然や歴史・文化等を教材として探求的に学ぶものであり、今後におきましては、福祉や防災、環境、コミュニティなども教材として積極的に取り入れながら取組を進めてまいります。

３点目の「研修や研究等で本町を訪れる各大学関係者・学生との交流」についてでありますが、包括協定を締結する名古屋外国語大学をはじめ、近年では、北海道大学や首都圏の大学等も本町をフィールドに研究等を行っていただいている状況にあります。

また、これらの関係者にプロフェッショナル講演会の講師として登壇いただくなど、日本のトップシーンにいる方たちにも本町とのご縁をいただいていることから、今後におきましても、これらの関係性に基づく交流や学びの機会を創出し、本町の児童生徒の多様な資質・能力の向上に努めてまいりたいと考えております。

２項目めの「社会教育の推進」についてであります。

１点目の「成人教育の推進、地域の担い手づくり」についてでありますが、少子高齢化と人口減少の進行は、今後のまちづくりにおきましては大変重要な問題であると認識しております。

特に、生産年齢層の減少は、今後のまちづくりに大きく影響を及ぼすものであり、現在の子

育て世代を中心とした若年層が将来の担い手としてまちづくりに関心を持ち、参画する機会を確保していくことが必要であると考えております。

このことから、今後におきましては、これらの世代の参画を促し、まちづくりの担い手として活躍する人材を発掘、支援できるよう成人教育を推進してまいりたいと考えております。

２点目の「白老東高校の存続に関する見解」についてでありますが、今春の北海道栄高校の苫小牧市移転に伴い、白老東高校は本町にある唯一の高校として、教育のみならずまちのにぎわい、地域の振興にとって非常に重要な学校であると考えております。

現在､白老東高校は地域探求学習を充実させるなど教育課程や生徒一人一人への支援の充実、生徒会を中心に校則の改正や積極的な地域参画を図るなど、教職員と生徒が一体となって学校の魅力化を図っているところであります。

教育委員会といたしましては、白老東高校の魅力向上の取組とともに、今後は情報発信等の支援を行いながら、地域と共にある学校づくり、中学生に選ばれる高校づくりを支えてまいります。

○議長（小西秀延君）　６番、前田弘幹議員。

〔６番　前田弘幹君登壇〕

○６番（前田弘幹君）　それでは、教育行政執行方針について再質問させていただきます。

まず、学校教育の充実について２点お聞きします。（１）の２番目、食としての特産品、住としての温泉や雪が少ないなどの強みも白老町を代表する資源だと思います。座学と併せて地域に出て自然環境を体験する、人生の先輩たちとの世代間交流もぜひ使ってほしい白老町の財産だと考えますが、その思いを伺います。

③、子供たちにとって町外の話は新鮮だと思います。大学生や高校生らと一緒に行動して一緒に学ぶ機会、これも児童や生徒には必要かと考えますが、再度見解を伺います。

社会教育の推進について１点お聞きします。（２）の②番、道立高校を町立高校にとか専門学校にとは言いませんけれども、選択授業などで例えば畜産、水産、観光などに特化した授業のこまをつくってはどうだろうか。また、午後の授業をそれらに特化した学校にしてはいけないかなど、これらを北海道と協議していくことは現実にできる、できないの議論ではなくて、白老町として白老町の地元の高校にこんな提案をしていますよだとか、こんな面白い取組はないでしょうというような感じを全国に向けた情報発信、そのＰＲになると考えますが、いかがか見解を伺います。

○議長（小西秀延君）　井内教育長。

○教育長（井内宏磨君）　まず１点目、地域の自然であったり、地域の教育人材をどのように活用していくかということでございます。

まず、本町にある自然、その中には温泉資源であったりとか雪が少ない。そういうものもありますし、産業でいうと白老牛、そして水産業、いろいろなものがあるかなと思っています。そういうものを体験していくというのは、非常に大事だなと思っています。私自身は、白老町の子供が牛を描いてねと言われたときに黒のクレヨンで真っ黒な牛を描く、そうあってもらいたいなと思っていますし、魚を描いてくださいと言われたときにスケソウを描いて、私の知っ

ている魚はこれです、そういう子供に育ってもらいたいなと思っています。こういうのを体験活動を通して学んでいく、非常に重要なことだと思っているので、それについては本当に小学校低学年から中学年にかけてになるかなと思っています。そういう働きかけを学校のほうにはしていきたいと考えております。

また、一方、さあ、温泉資源があります、雪が少ないです。それを知っているだけではなくて、そうしたものを本町の課題解決にどう生かしていくのか。観光や産業にどう結びつけていくのか。そういう取組もぜひ小学校の高学年であったりとか、中学生、高校生には考えていただきたいと思っています。そうすることで課題解決能力であったりとか、当事者意識を持ったふるさとへの愛着が生まれていくと思っています。

また、人材活用でございますけれども、本町ではこれまでも高齢者大学が小学校を訪問するであったりとか、職業体験の中で多くの人々にご指導をいただいているという機会もございます。これからもそういう機会を大事に地域学校協働活動を積極的に進めてまいりたいと考えているところでございます。

２つ目でございます。２つ目は、本町を訪れる大学生との交流を積極的に図っていくべきという話でございます。まずは、名古屋外国語大学については2019年から世界共生学科、地域創生科目北海道プログラムにおいてほぼ毎年本町を訪れてフィールドワークや報告会をしていただいているところでございます。2023年には包括協定を行い、亀山学長の講演会などその後も良好な関係を築いているところです。加えて、昨年度、今年度からは白老東高校に名古屋外国語大学の学生が訪問をして一緒にアイヌの食文化について学習をしたりとか、意見交流なども行っております。また、子ども憲章推進委員と一緒にイベントに参加して交流を行うということも行っております。このように様々な機会を活用して、本町を訪れる大学生との交流を通して本町のよさを多面的、多角的にするという機会はこれからも積極的につくっていきたいなと考えているところでございます。

最後に、白老東高校の魅力ある教育課程の創造についてということでございます。まず、先ほども申し上げたとおり白老東高校については様々な魅力化の取組を現在行っているところでございます。ただ、昨年秋に校長自らが苫小牧市にある各中学校を回って学校説明を行ったところ、その魅力が十分に伝わっていないということにショックを覚えておりました。ですから、改めてその魅力化をきちんと発信していく必要があると捉えております。その一方で、こうした魅力化の取組が実は中学生目線にとって魅力化につながっているのかどうなのかということも検証しなければならないなと思っています。改めて、マーケティング含めそういうものも白老東高校と連携して進めてまいりたいと考えています。その中の一つに今議員のほうからおっしゃられた魅力ある教育課程、特色ある教育活動ということについても改めて学校と共に見直しながら、積極的に北海道であったり関係機関のほうに訴えていきたいなと思っています。白老東高校の存続については、まちの重要事項と捉えておりますので、白老東高校にあるＰＴＡ、同窓会、コンソーシアム、学校運営協議会等々と連携を図りながら魅力化と、その情報発信に努めてまいりたいと考えているところでございます。

○議長（小西秀延君）　６番、前田弘幹議員。

〔６番　前田弘幹君登壇〕

○６番（前田弘幹君）　それでは、最後になります。

冒頭でも言いましたけれども、切れ目のない子育て支援、そして給食費無償化をはじめ、シニア向け健康キャラバンや各種福祉サービス政策、雪が少ない、温泉がある等々、先ほど同僚議員からもありましたとおり、このまち白老町は非常に魅力ある住みよいまちである。足りないのは、今教育長もおっしゃっていましたけれども、ＰＲ、情報発信能力なのではないかと考えております。本当にこれだけの魅力あるこのまちが住人含め観光客、交流人口を含めもっともっと多くの人が集まってもいいように感じるところであります。令和８年度、町長のＰＲ、情報発信についての思いを聞いて会派ひかり、代表質問を終わりたいと思います。

○議長（小西秀延君）　大塩町長。

○町長（大塩英男君）　最後ということで、令和８年度のまちづくりについてのご質問をいただきました。

今様々な町政執行方針、そして教育行政執行方針で議員のほうからの質問にお答えさせていただいたのですけれども、今回の執行方針の中で人の力、地域の力というようなお話をさせていただきました。様々な人と人とのつながりであったり、それが結びついていって地域の力になって、そしてまちの発展にというようなお話をさせていただきましたので、令和８年度についてはやはりここを大事にしてまちづくりを進めていきたいなと考えております。議員のほうから現役世代の応援というようなお話がありました。改めて自分の考えをお話しさせていただきますと、これまでというか、やはり将来に向けてというような、次世代に向けてと様々な施策を取らせていただきました。ただ、令和８年度は今を支えるということで、やはり現役世代がしっかりとまちづくりに参加をしていただかなければまちの発展はないですし、未来にはつながっていかないと思っておりますので、改めてこの足元を固めるというか、現役世代にしっかりと寄り添っていくというようなことでまちづくりを進めていくということはご理解をいただければなと思います。

議員のほうから様々に温泉の話であったり、積雪量の少なさだったり、食だったりというお話がありました。今後の将来的なまちづくりを考えていったときには、まちの発展に必要不可欠なものは何かというと、もちろん人であったり地域の力になるのですけれども、プラスしてやっぱり地域資源です。この地域資源というのは揺るがないものというか、そしてやっぱり守っていかなければならないということで、この地域資源をいかに発展をさせて持続可能にやっていくかというのがまちの存続に一番重要なことだなと思っております。

ですから、この地域資源をもっともっと皆さんに分かっていただけるように、これは町内も町外もなのですけれども、発信できるような形で、ずっとこれは課題になっているのですけれども、しっかりと令和８年度に向けてもやらせていただければなと思います。

○議長（小西秀延君）　以上で会派ひかり、６番、前田弘幹議員の代表質問を終了いたします。

ここで暫時休憩といたします。